

## 研究論文

## 保育所における一時保育を利用した母親の意識調査

松岡 知子<sup>1)</sup>・櫻谷 眞理子<sup>2)</sup>The research, consciousness of the mother  
who used temporary child care at the day nursery

MATSUOKA Tomoko, SAKURADANI Mariko

Research for the mother who has the experience which temporary child care was used for in the day nursery was done. After temporary child care was used, the desirable change of “It learned to have mental comfortableness.” and so on was seen. It could be understood that affirmative consciousness for mothers’ child care rose. But, mother of about 2/3 had the conditions which temporary child care was hardly used for. There was a social condition such as “It didn’t know that there was temporary child care.” in those contents. And, the conflict of mother such as “It thought that a child is pitiful.” “It thought that it considers being selfish from the neighborhood.” was seen by 40% of the mothers. As for the child care, it found that the recognition of only mother’s role made it hesitate to use temporary child care.

**Key words** : temporary child care, mother, day nursery

キーワード : 一時保育, 母親, 保育所

## . 緒 言

平成10年度版厚生白書<sup>1)</sup>では、育児不安や育児ノイローゼは、専業主婦に多く見られ、その背景として、終日子育てに専念する主婦は、子育てについて周囲の支援も受けられず、孤独な中で、子ども中心の生活を強いられ、自分の時間が持てないなどストレスをためやすいのではないかと述べられている。大日向<sup>2)</sup>は、母親たちは子育てに困難を感じる背景として、子どもの世話を一人で担い、心身共に疲労している状況とともに、子育てに専念していると、社会

から取り残される焦燥感を募らすと報告している。現代の女性は昔と異なり、結婚前は就労等の社会生活を経験している。仕事は厳しくとも、経済効率というモノサシで努力を図ることができ、目標達成による満足感も得やすかったであろう。しかし、子どもとだけ向き合う生活は、その成長の緩やかさや即座に成果を確かめ難いもどかしさに加えて、どんなに子育てに励んでも「母親なら当たり前」としてしか育児は評価されない。こうした虚しさは、現在だけではなく、やがて子育てが一段落する日が来ても、再び社会に復帰できる保障がないという焦りが加わって、今の生活がいっそう虚しく感じられるといわれている。また、父親は「育児は母親の

1) 京都府立医科大学医学部看護学科

2) 立命館大学産業社会学部

仕事。父親はいざという時に毅然とした指針を示せばよい」という母性観に依拠して、子育てにも無関心である場合が少なくない。子育ての歪みは、単に親の心構えの問題ではなく、性別役割分業体制に大きな影響を受けているといえよう<sup>3)</sup>。

また、高江<sup>4)</sup>(2000年)の、専業主婦の母親を対象にした調査の結果では、「今の自分に対する不満」で最も多い回答は「自分の時間が無い(52.2%)」である。また、41.1%の専業主婦の母親は「子どもと過ごす生活から時々抜け出したい」と回答している。

内閣府が2002年8月31日に公表した「国民生活に関する世論調査<sup>5)</sup>」でも、「子育てをつらい」と感じる理由(複数回答)のうち、20歳代女性の回答では多い順に「自分の自由な時間がなくなること」56.5%、「子どもの相手は体力や根気がいること」51.4%、「自分が思ったように働けないこと」39.0%であった。少子化の進展を背景に、子育てを負担と感じる人、特に子育て中の女性が増えている。そして、子育てのつらさに「自分の自由な時間がもてないことないこと」が大きく起因していた。

母親が、育児以外の何らかの役割を持ったり、ゆとりを持ったりすることは、母親自身にとっては、子どもとだけ向き合う生活から解放される結果、子どもを客観視する余裕ができる。そして、それは、子どもの成長を温かく見守る視野の広さに繋がるであろう。また、父親にとっても仕事と家庭生活を両立する努力と工夫が、親としての成長に欠かせないものであろう。そして、母親一人にかせられていた育児負担を軽減することにつながると考える。

このような状況下、平成10年版厚生白書<sup>1)</sup>では子育てについて「子育てに他人の手を借りずにすべてを自分でやり遂げるといったことだけが子育てにおける親の責任の果たし方ではない。仕事と子育ての両立を図る中で、よい保育サー

ビスを選択し、利用しつつ、家庭にいる時間の子どもとの交流を大切にすることがあってもよい。専業主婦であっても、一定の時間、保育所の一時保育やベビーシッターを利用するなどして気分転換を図ったり、自分の時間を持ち、適度にストレスを発散することで、より豊かな心で子どもと接することができれば、四六時中子どもの側にいなくともそれは立派な親としての責任の果たし方であり、愛情表現でもある」と報告され、一時保育に対するニーズを指摘した。

母親が、育児以外の何らかの役割を持ったり、ゆとりを持ったりする為には、母親に一時的に子どもから解放される時間が与えられることが必要であろう。その為の支援は、インフォーマルな支援であっても、フォーマルな支援であってもよいであろう。

インフォーマルな支援では、我が国では古来より里帰り分娩の習慣があるよう<sup>6)</sup>に、祖母(特に実母)の支援が代表的であろう。前述の「国民生活に関する世論調査<sup>5)</sup>」では、世帯構成別にも分析しているが、「辛いと感じることの方が多い」と回答したものは、2世代世帯(親と子)が6.9%、3世代世帯(親と子と孫)が5.1%であった。わずかではあるが、2世代世帯のほうが3世代世帯に比べ「辛いと感じることの方が多い」と回答しているものが多い結果であった。又、筆者は、以前にインフォーマルな子育て支援について、祖母を中心とした子育て支援の調査を三歳児健康診断を受診した者の内、祖母と同居又は近居の母親とその祖母516組を対象として行った経験がある。その結果、祖母の子育て参加とそれに対する母親の満足感との関連をみたところ、祖母の子育て高参加群に母親の満足群が多い傾向がみられた。また、祖母の子育て参加が多い群に「育児が楽しい」「育児に自信がついた」と答えた母親が多くみられた。一方、子育てに対して心配・不安がある母親では祖母もまた育児方針が異なる

いった不安を多くもっていた。祖母の子育て支援は母親との育児方針の統一がはかられれば、有効な支援となりうる事がわかった<sup>7)</sup>。しかし、この調査対象は、祖母と同居または近居の母親を対象としており、一般の母親の集団とは性格を異にしている。インフォーマルな支援は有効ではあるが、子どもがいる世帯の7割以上が核家族である現在において、受けることができない母親が多いことが現実であり、何らかのフォーマルな支援が必要である。

地域では、様々なフォーマルな支援がある。筆者は、以前に出産後1年の母親が、1年間に受けたフォーマルな支援の実態調査を行った。その結果、乳児健診や新生児家庭訪問などの、強制力が強かったり、受け身の形での支援は多く受けているものの、自分から支援を求めなければ受けられない「育児サークル」「助産所での母乳相談」などの支援はほとんど受けていなかった。しかし、支援を受けたことに対する満足感が高かったのは、「育児サークル」や「助産所での母乳指導」であった。地域には、いくつかのフォーマルな支援があり、それを有効に利用している人は満足しているものの、有効に使用できていないことがわかった<sup>8)</sup>。地域には、一時的に母親が育児から解放されるためのフォーマルな支援が少ないながらも。しかし、そのような支援も他の支援と同様に有効に利用されていない可能性があると思われる。

そこで、一時保育を利用した母親を対象とし、一時保育が母親に与える影響、利用理由、利用のきっかけや利用しにくかった状況、利用後の感想などを知り、保育園で一時保育を行う意義と課題について考察したい。

## ・調査方法

### 1) 対象

京都市内の一時保育を実施している民間園の

うち、協力が得られた5園を利用した母親43人である。

### 2) 方法

質問紙調査を行った。

調査内容は、属性項目、育児に対する母親の意識の他に、一時保育に関しては、利用状況、利用理由、満足度、子どもの変化、利用しにくかった事や利用までの葛藤などである。育児に対する母親の意識は、大日向<sup>9)</sup>の「母親役割受容」の尺度を用い、現法通り得点化した。一時保育に関する質問項目は須永<sup>10)</sup>の調査項目を参考に作成した。

回収は郵送とした。

## ・結果

34人から回答が得られた。回収率は79.0%である。

### 1) 属性

子どもの性別はほぼ半数ずつであり、平均月齢は25.4ヶ月であった。母親の平均年齢は31.6歳であり、職業は有職者が47.1%、無職が52.9%であった。家族形態は、核家族が79.4%、三世帯家族が14.7%、一人親家族が5.9%であった(表1)。

### 2) 保育園の一時保育利用している母親の育児に対する意識

それぞれの項目の平均点は、図1, 2に示す通りである。

### 3) 保育園の一時保育利用までの子どもの預け先

一時保育を利用するまでの子どもの預け先は、母の親が26.5%、父の親が8.8%、友達が5.9%、無認可保育園が5.9%であり、預けていなかったが58.8%であった(図3)。

### 4) 保育園の一時保育の情報源

一時保育の情報源は自由記載で質問した。記載された内容を整理したところ、情報源は、「園のしおりで」「役所で聞いたが、保育所は満

真なので入所できないと言われ、どうしても預けないと仕事が続けられないので、自分で保育所に何件も電話をしてやっと預けるところをみつけた」等、保育園が9人(26.5%)、「友人に教えてもらった」「近所の人から聞いた」などの友人・知人が9人(26.5%)、福祉事務所等が7人(20.6%)、インターネットが3人(8.8%)、保健所が2人(5.9%)、「言葉の遅かった兄のことを子ども支援センターの園長が聞いてくれ、

療育に行っている事を知り、下の子どもを預かろうと言ってくれた」など子ども支援センターが2人(5.9%)、雑誌・広報誌2人(5.9%)、その他2人(5.9%)であった(図4)。

5) 保育園の一時保育の利用状況

今回はじめて利用した者は23.5%、以前から利用している者は76.5%であった。

以前から利用している者のうち、利用期間は、2~3ヶ月前からが19.2%、4~6ヶ月前から

表1 保育園の一時保育を利用している対象の属性

母親 平均年齢	31.636 ± 4.531 歳	子ども 性別 男	16名 (51.6%)
		女	15名 (48.4%)
職業の有無		月齢	25.382 ± 11.737 ヶ月
有 職	16名 (47.0%)	家族形態 核家族	27名 (79.4%)
無 職	11名 (32.4%)	三世大家族	5名 (14.7%)
過去有職、現在無職	4名 (11.8%)	ひとり親家庭	2名 (5.9%)
求職中	3名 (8.8%)		

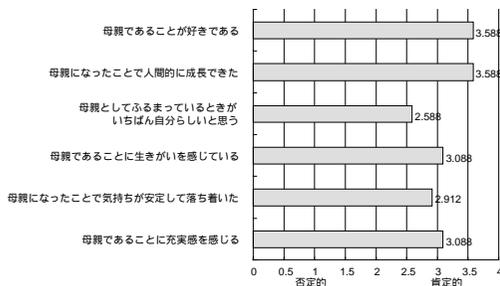


図1 保育園の一時保育を利用している母親の育児に対する母親の意識(肯定的項目)

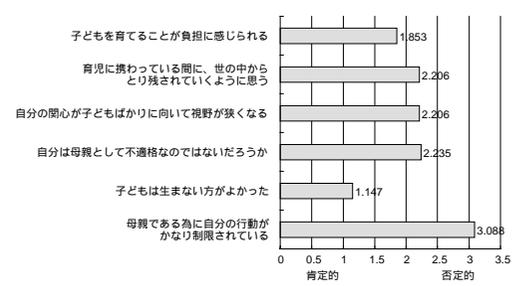


図2 保育園の一時保育を利用している母親の育児に対する母親の意識(否定的項目)

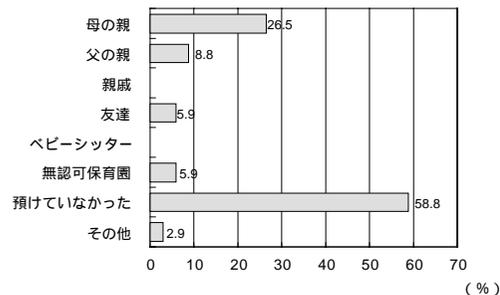


図3 保育園の一時保育利用までの子どもの預け先

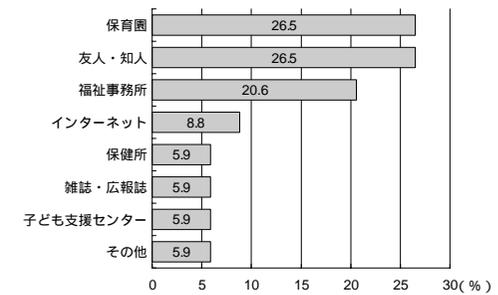


図4 保育園の一時保育の情報源

が23.1%，6ヶ月～1年前からは26.9%，1年以上前からは30.8%であった。

週平均利用日数は $2.0 \pm 1.1$ 日，1回の利用時間の平均は $5.9 \pm 2.0$ 時間，今までの利用回数の平均は $40.0 \pm 40.8$ 回であった（図5）

### 6) 保育園の一時保育を利用した主な理由

一時保育を利用する主な理由は，3つ以内で選んで回答を求めた。子どものため44.1%，仕事は44.1%，求職活動のため20.6%，買い物や習い事，友達との会合などのため14.7%，保育所入所への待機期間にあるため14.7%，普段面倒をみてくれていた家族の都合がつかなくなったため14.7%，育児の心理的・肉体的負担を解消したい11.8%，親自身の病気・ケガ，検診や治療通院などは8.8%，家族や知り合いの看護・介護のため8.8%，家庭における子育てに疲れ，一時的に子育てから開放されたい8.8%，その他21.2%であった（図6）

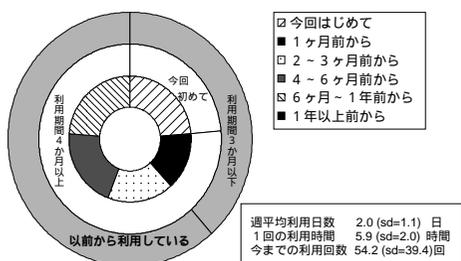


図5 保育園の一時保育の利用状況

### 7) 保育園の一時保育を利用した満足感

「満足している」が88.2%，「どちらともいえない」が11.8%であり，「不満である」と回答した者はいなかった（図7）

### 8) 保育園の一時保育を利用した後の子どもの変化

一時保育を利用後の子どもの変化では，「変わった」85.3%，「特に変わった様子はない」14.7%であった（図8）。変化の内容は，多い順に「精神的に成長した」41.2%，「意欲や積極性がでてきた」41.2%，「甘えるようになった」26.5%，「言葉が発達した」23.5%，「後追いをするようになった」17.6%，「乱暴になった」2.9%，「わがままになった」2.9%であった（図9）

### 9) 保育園の一時保育を利用した後の母親の気持ちの変化

一時保育利用後の母親の気持ちの変化は3つ

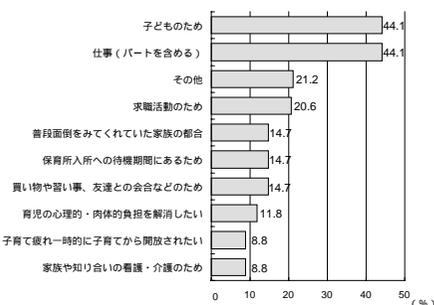


図6 保育園の一時保育の利用理由(重複回答)

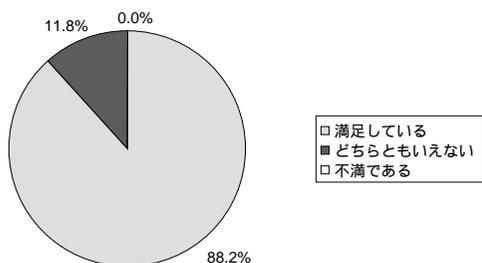


図7 保育園の一時保育に対する満足感

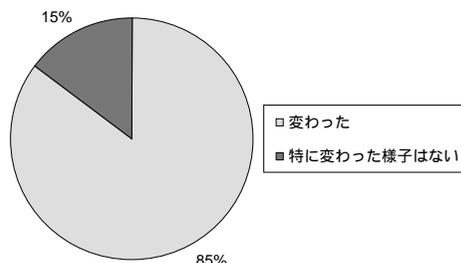


図8 保育園の一時保育を利用した後の子どもの変化の有無

以内で選んで回答を求めた。「安心して仕事(用事)ができるようになった」66.7%、「精神的な『ゆとり』が持てるようになった」63.6%、「担当の保育者や他の母親と子育てについて話す機会ができた」27.3%、「子どもを預けるときはつらいが、子どもにとって必要なことと思えるようになった」27.3%、「子どもを預けるときはつらいが、自分にとって必要なことと思えるようになった」18.2%、「子育ての楽しさが理解できるようになった」9.1%であり、「親の役目を果たしていないのではないか」という気持ちを持つことがある」と回答した者はいなかった(図10)。

10) 保育園の一時保育を利用するまでの利用しにくい状況

一時保育を利用するまでの利用しにくい状況は「あった」が60.6%、「なかった」が39.4%であった(図11)。

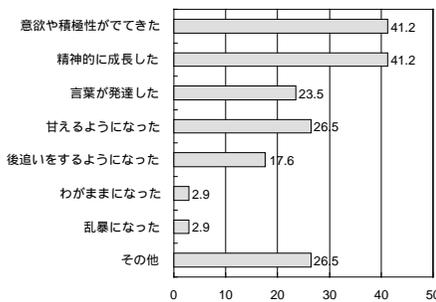


図9 保育園の一時保育を利用した後の子どもの変化の内容

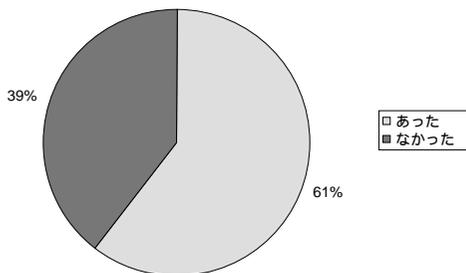


図11 保育園の一時保育の利用しにくい状況の有無

利用しにくい状況のうち、母親の気持ちでは、多い順に「『子どもがかわいそう』と思った」23.5%、「周りから、子どもに対する愛情が薄いとか、自分勝手であるとか見られないかと思った」11.8%、「子どもを預けてまで、仕事・用事・リフレッシュをしたいと思わなかった」5.9%、「子育てに他人の手を借りずに自分でやり遂げたかった」2.9%、「母親は子育てに専念するものだと思った」2.9%であり、これらの項目に1つでも回答した利用しにくい条件として母親の気持ちの葛藤があった者は38.2%であった(図12)。

周りの人の反応では、「周りの人から『子どもがかわいそう』と言われた」8.8%、「周りの人から子どもに対する愛情が薄いとか、自分勝手であると言われた」8.8%、「周りの人から母親が子育てに専念するものだと言われた」2.9%であった。これらの項目に1つでも回答

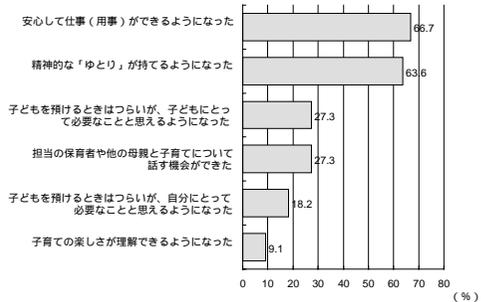


図10 保育園の一時保育を利用した後の母親の気持ちの変化

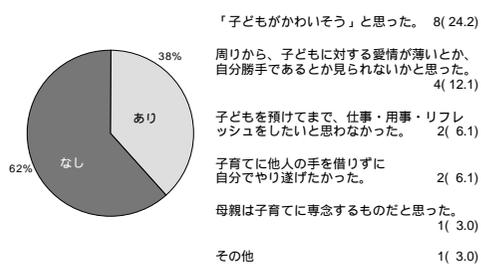


図12 保育園の一時保育の利用しにくい状況の有無 母親の葛藤

した利用しにくい条件として周りの人の反応があった者は14.7%であった（図13）。

社会的条件では、「近くに一時保育をしている保育所がなかった」14.7%、「一時保育があることを知らなかった」11.8%、「一時保育の内容に不満があった」2.9%であり、これらの項目に1つでも回答した利用しにくい条件として社会的条件があった者は47.1%であった（図14）。

### 11) 保育園の一時保育を利用しにくい状況との関連項目

#### 属性項目との関連

一時保育を利用しにくい状況のうち、母親の気持ちの葛藤があった群（以下、母親葛藤あり群）は、ない群に比べて、子どもの月齢が低い傾向が見られた。また、母親の年齢は高い結果であった（図15）。

#### 情報源との関連

一時保育を利用しにくい状況のうち、母親葛

藤あり群と周りの反応があった群は、ないものに比べてインターネットから情報を得ていたものが多い傾向であった（図16）。

#### 育児に対する母親の意識との関連

一時保育を利用しにくい状況のうち、社会的条件があった群はなかった群に比べて「母親であることが好きである」の得点が低く（否定的）、有意差は見られないが、合計点も低い（否定的）傾向であった（図17）。

#### 子どもを預けた経験との関連

一時保育を利用しにくい状況と子どもを預けた経験との関連では、母親葛藤あり群は、ない群に比べて、一時保育利用までに、預けた経験がない者が有意に多く、母親の親に預けた経験も有意差はないものの多い結果であった。また、有意差は見られなかったが、周りの反応があった群はなかった群に比べて預けた経験がない者が多かった（図18）。

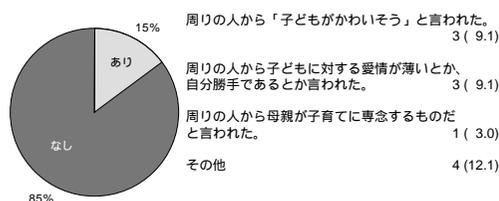


図13 保育園の一時保育の利用しにくい状況の有無 周りの反応

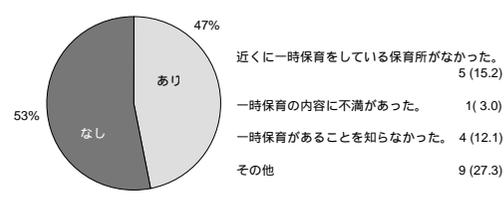


図14 保育園の一時保育の利用しにくい状況の有無 社会的条件

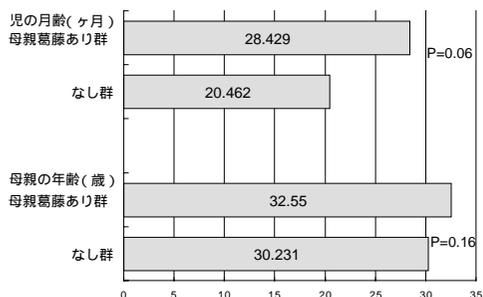


図15 保育園の一時保育を利用しにくい状況と属性項目との関連

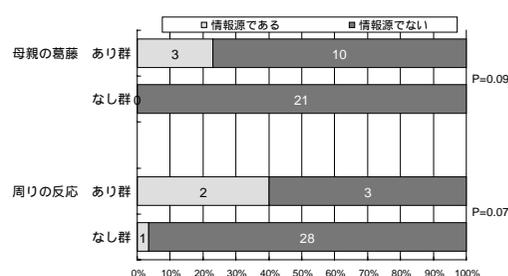


図16 保育園の一時保育を利用しにくい状況と情報源（インターネット）との関連

一時保育利用後の子どもの変化との関連

母親葛藤あり群の母親は、なし群の母親と比べると、「後追いをするようになった」「甘えるようになった」と回答した者が有意に多く見られた。また、有意差は見られないが、「甘えるようになった」と回答した者が多い傾向にあった(図19)。

利用しにくい状況間の関連

一時保育を利用しにくい状況間の関連を見た

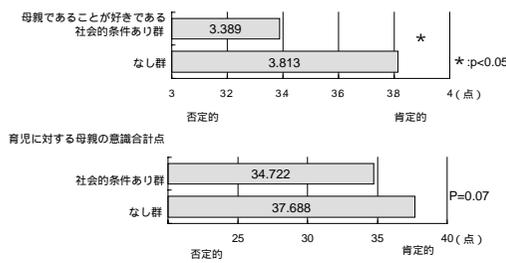


図17 保育園の一時保育を利用しにくい状況と育児に対する母親の意識との関連

ところ、それぞれの3つの状況は互いに有意な関連が見られた(図20)。

12) 保育園での一時保育に対する自由記載

自由記載はまとまりのある意味がある文を単位として抽出し、カテゴリー化を行った。

カテゴリーに分類された内容のうち、多かった順に「実施園の不足」42.9%、「支援の有効性」38.1%、「情報不足」9.5%、「多様なサービスへの希望」9.5%であった(資料1)。

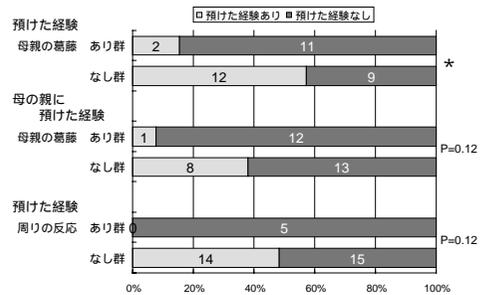


図18 保育園の一時保育を利用しにくい状況と子どもを預けた経験との関連

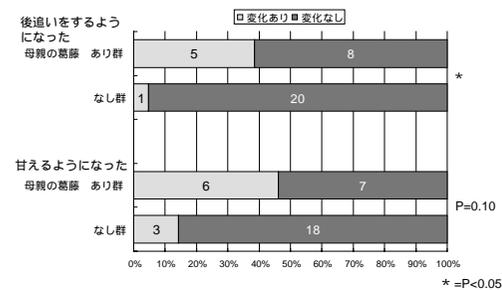


図19 保育園の一時保育を利用しにくい状況と一時保育利用後の子どもの変化との関連

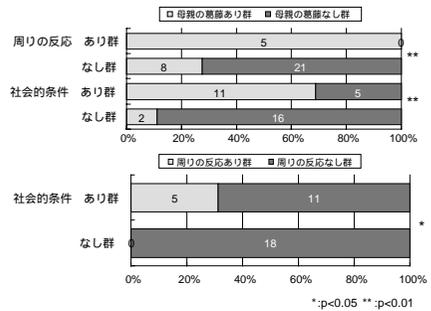


図20 保育園の一時保育を利用しにくい状況と間の関連

## 資料1 保育園での一時保育に対する自由記載

### 実施園の不足

- ・一時保育の保育所が増えることを希望します。
- ・私の住んでいる地域で一時保育を行っているのは1カ所なので、いつでも好きなときに利用することが出来ず、多くても週一程度で仕事をしていないとあまり利用できないようなことを・最初に軽く言われました。もう少しだけ自由に利用できればと思います。でも一時保育はまだまだ少ないと思います。人数も決まっていてなかなか予約がとれないのは残念です。
- ・もう少し一時保育を実施している園が増えたらいいと思います。
- ・利用したいがなかなか利用したい日（希望日）がとれないので困ることがあります。
- ・私はたまたま近くにそういう保育園があったのでラッキーでしたが、まだまだ数が少ないように思います。
- ・一時保育をされている保育園は日常的に慣れない子ども達を受け入れられるので本当に大変だなあとも感じています。でももっと多地区に実施園ができれば利用者は本当にありがたいです。
- ・私の住む地域は保育園への希望者多数ですが、やっと地域にできた保育園は規模が小さく受け入れ少なく途中入所は全く不可能です。他地域の園を利用していると、地域の情報はとても入りにくく、孤立しています。
- ・近くの保育園が少なすぎて入れないです。仕事を探したくても子どもを預けるところがないのはどうでしょう。

### 支援の有効性

- ・一時保育がどこの保育所でもやって頂けるようになれば、これからのお母さんは本当に役に立つと思います。
- ・一時保育で私は随分助かってます。通院の際、主人に休んでもらって見てもらったりしていなので...子どもにも集団生活を少しでも体験して欲しかったし。
- ・現在行っている園は雰囲気も良く親切なので話しやすい。給食の面でもいろいろなメニューを工夫していただいているので安心である。こういう園が沢山増えれば良いと思った。
- ・育児不安などは保育園の先生とお話することで気が楽になることがあります。そういう話せる場を作って欲しいです。
- ・一時保育は誰でも気軽に利用できるところが素晴らしいと思います。
- ・初めての子どもで不安一杯でしたが保育園の先生の暖かい支援とアドバイスで本当に助かっています。子どもの社会性を養うと共に保母さんなどの理解とアドバイスで核家族を助けてくれる人がいない母親にはとてもありがたいことです。子どもだけでなく母親に対しても育児の教育や育児について話す場を作ってもらって役立つと思います。そうすれば、母親の心のゆとりが増え、それが子どもにもいい影響を与えていると思います。
- ・私が今、一時保育をお願いしている保育園はとてもいい先生ばかりです。子どもの成長の事とか、どうしたらいいかわからなくて困っていたときは、サポートしてくださいました。子どものためにも親の為にも一時保育はとても良い支援だと思います。

### 情報不足

- ・一時保育は友人に教えてもらうまで知らなかった。一時保育のことがもっと早くにわかっていればもっと早く預けたかったです。
- ・もっと、一時保育の存在を世間にアピールし（産院などで自宅近くの保育所を教えてもらう）母親に対しての育児相談窓口を作って欲しいと思います。
- ・私は緊急でお願いしたのですが、もっと早くから利用していたら良かったと思います。

### 多様なサービスへの希望

- ・色々な、事情の人がいるので、もう少し、受け入れてくれるところが欲しい。
- ・今の保育園には一時保育にも障害児を受け入れ、加配も園が付けてくれるという状態です。障害児にも一時保育が利用できるようにしてほしい。加配も付けて欲しい。
- ・社会性を身につけ、一杯遊ぶだけの園としては気に入っていますが、あと3年、地域との関わりなく今の園に通常保育児として入園することにはためらいがあります。

## ・考 察

一時保育を利用している母親の家族構成は、核家族と一人親家族の合計が85%であった。また、一時保育を受ける以前に子どもを預けた経験のない母親が約60%いた。一時保育を利用している母親はインフォーマルな支援が少なく、子どもを預けることが困難な状況があることが認識できた。特に、一時保育を利用しにくい状況として母親の葛藤のあったものは、子どもを預けた経験が少なく、情報をインターネットから得ているものが多かった。人間関係の希薄さが背景にあるのではないかと推測する。

保育園で一時保育を利用する主な理由は、仕事、求職活動のためが多くみられた。また、それぞれ10%前後ではあるが、買い物や習い事、友達との会合などのため、育児の心理的・肉体的負担を解消したい、一時的に子育てから開放されたいという回答もあり、女性が母親役割から解放されたり、母親役割以外の役割をもつことの一助となっていると思われた。利用後の満足度は約9割が満足と回答しており、不満と回答した母親はいなかった。また、利用後に6割以上の母親が「安心して仕事(用事)ができるようになった」「精神的な『ゆとり』が持てるようになった」と回答している。自由記載欄でも「一時保育で随分助かっている。以前は、通院の際、夫に休んでもらってみてもらっていた」「育児不安などは保育園の先生とお話することで気が楽になることがある」「一時保育は誰でも気軽に利用できるところが素晴らしいと思う」などの記載があった。一時保育は母親にとって有効な支援となっていることが示唆された。

又、利用理由を子どものためと回答していた母親が約4割いた。子ども同士が遊ぶ事が困難な地域の母子にとっては重要な理由であろう。利用後の子どもの変化をみると、「精神的に成

長した」「意欲や積極性がでてきた」「言葉が発達した」などの成長発達が促されている変化が多く見られた。また、「甘えるようになった」「後追いをするようになった」などの愛着形成が促進されている兆候もみられた。「乱暴になった」「わがままになった」などは少数であった。一時保育は子どもの成長発達にとってもよい影響を与えているようである。特に、一時保育を利用しにくい状況として母親の葛藤のあったものは、子どもの変化で「後追いをするようになった」「甘えるようになった」と回答した者が多く見られた。これらの反応は、子どもが母親以外の保育者との関わりによって愛着関係がよくなり、母親に対する愛着形成が促進されている兆候ではないかと思われ、興味深い。

一方、保育園での一時預かりに対する課題もみられる。

まず、情報の得にくさである。保育園利用者の情報源は、「保育園」が最も多かったが、これは上の子の通っている保育園で知ったケースや、何軒もの保育園に直接電話してやっと見つけたケースがあった。次いで「友人・知人」「福祉事務所」となっていた。一時保育に関する情報は、偶然情報を得るケースと、積極的に情報を得た結果知ったケースに分かれている印象を受けた。また、一時保育を利用しにくい状況は約2/3の母親が「あった」と回答し、その内容は、社会的な条件「一時保育があることを知らなかった」「近くに一時保育実施園がなかった」などがあった。その他に、「子どもがかわいそうと思った」「周りから自分勝手であると思われなかった」となどの葛藤は約4割の母親にみられた。自由記載欄でも、「一時保育は友人に教えてもらうまで知らなかった。一時保育のことがもっと早くにわかっていればもっと早く預けたかった」「もっと、一時保育の存在を世間にアピールし(産院などで自宅近くの保育所を教えてもらう)母親に対しての育児

相談窓口を作って欲しい」などの記載があった。一時保育は子育てに負担感や閉塞感を持つ母親に対する有効な支援ではあるが、自発的に情報を求め、葛藤を乗り越えた一部の母親にしか利用されていないようである。

自由記載欄を見ると、「仕事をしていないとあまり利用できないようなことを最初に軽く言われた。もう少しだけ自由に利用できればと思う」「なかなか予約がとれず残念」「仕事を探したくても子どもを預けるところがない」などの、実施園の不足や、障害児を含めた一時保育などの多様なサービスへの希望などが、課題としてあげられる。しかし、調査依頼をした保育園から調査に協力が得られない理由として「一時保育を受け入れる方針であるが、現在定員90名の所、緊急受け入れで106名を受け入れており、一時保育を受け入れられない状況が来年3月まで続く予定。受け入れられる状況になれば、受け入れる方針」という回答もあった。子どもの数は減っているにもかかわらず、一時保育のニーズは高い。保育施設の増加が望まれる。

保育内容については、満足しているものが多かったが、通常保育児と一緒に行事に参加できない事などの保育への不満の声もあった。民秋ら<sup>11)</sup>の調査の結果、一時保育の保育形態は、専用の保育室の有無、専用保育士の有無、行事への参加など園によって異なっている。これらの条件別に、「一時保育中の子どもの様子」分析した結果、担当の保育士がおらず、主任が担当した場合、子どもが安定しない様子を示していた。専用保育室の有無別では、専用保育室がある場合、「保育中にこやかにしている」「ぐっすりと眠る」が多く、子どもの情緒は安定するようである一方、専用保育室がない場合「通常保育の子どもと遊びたがる」「園の施設や遊具に興味を示す」が多く、主体的に一時保育を楽しんでいるようである。専門プログラムの有無別では、「緊急保育群」では、「その子にふさわし

いクラスに入れる」というプログラムにした場合、「元気に園内を走り回る」などの楽しそうな様子がみられるという。一時保育は、担当の保育士の存在のもと、一人一人の子どもに見合った受け止めが求められていると言えよう。そして、特に、親の病気・けが・出産などの緊急・一時的な事情を理由としている子どもの場合、配慮が必要であろう。

一時保育を利用しにくい状況間の関連を見たところ、母親の葛藤・周りの反応・社会的条件それぞれの3つの状況は互いに有意な関連が見られた。特に、「周りの反応がある」とした母親のすべてが「母親の葛藤」があったと回答していた。国立社会保障・人口問題研究所の第2回全国家庭動向調査<sup>12)</sup>でも、乳児期において母親が育児に専念することは、どの世代にも圧倒的な支持を受けている。「子育ては母親がするもの」という認識は、母親を含めた人々が持ち続けていることが推測され、一時保育を利用しにくくしている大きな要因であると思われた。

## ・おわりに

母親が育児から一時的に解放され、自分の為の時間を持つ事ができる為の支援に対する母親のニーズは、大変に高かった。そして、保育園の一時保育などを利用した母親の満足感が高く、子どもを見る目にも余裕ができていたことがわかった。しかし、利用しにくい状況として、施設の少なさ、情報不足などの社会的条件があった。また、一方、育児は主に母親だけの役割という認識が、母親に自分の時間を持つ為の育児援助を利用することを躊躇させていることもわかった。

助産師は、育児のスタートの時点で母親に接することができる。母と子の閉ざされた家庭を未然に防ぐ為も、育児は主に母親だけの役割ではないという認識を、母親や父親、その他の家

族に伝え、一時保育などの育児援助資源の情報を示すことは、必要な支援であろう。

### ・要約

保育所で一時保育を利用した経験を持つ母親を対象とした調査を行った。一時保育利用後は、「精神的ゆとりが持てるようになった」などという好ましい変化がみられ、母親たちの子育てに対する肯定的意識が高まることが把握できた。しかし、一時保育を利用しにくい状況は約2/3の母親が「あった」と回答し、その内容は、「一時保育があることを知らなかった」等の社会的条件の他に「子どもがかわいそうと思った」「周りから自分勝手であると思われたいかと思っただ」等の母親の葛藤が4割の母親に見られた。育児は主に母親だけの役割という認識が、一時保育を利用することを躊躇させていることがわかった。

(本研究を行うに当たり、ご協力頂きましたお母様方、保育園の皆様と、ご指導頂きました櫻谷教授に深く深謝致します)

(本論文は、立命館大学大学院社会学研究科応用社会学専攻修士論文の一部を櫻谷教授のご指導のもと加筆修正したものである)

### 参考文献

- 1) 厚生省『平成10年度版 厚生白書』84ページ
- 2) 大日向雅美『子育てと出会うとき』NHK BOOKS, 1999年, 129ページ
- 3) 大日向雅美「新たな子育ての時代を求めて 孤立する母子育児から 母性は本能か - 歪みの元凶は性別役割分業」公明新聞 1999年6月17日
- 4) 高江幸恵「専業主婦の子育て支援」『小児科臨床』第53巻7号, 2000年, 157～163ページ
- 5) 2002年「国民生活に関する世論調査」  
<http://www8.cao.go.jp/survey/h14/h14-life/2-3.html>
- 6) 鎌田久子他『日本人の子産み・子育て いま・むかし』勁草書房, 1990年, 114～115ページ
- 7) 松岡知子他「祖母の子育て参加が母親に与える影響」『母性衛生』37巻1号, 1996年, 91～98ページ
- 8) 飯田三貴子, 松岡知子他「出産後1年間に母親が受けた家族と専門職による子育て支援の実態 - 出産後1か月から現在への変化 - 」『京都母性衛生誌』9巻1号, 2001年, 45-51ページ
- 9) 大日向雅美『母性の研究』135～169ページ, 川島書店, 1988年
- 10) 須永進「保育所における一時的保育に関する調査研究」『日本総合愛育研究所紀要』第33巻, 1996年, 267～272ページ
- 11) 民秋言他「一時保育における保育の処遇のあり方について」『厚生科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)平成11年度研究報告書』688～689ページ
- 12) 国立社会保障・人口問題研究所「第2回全国家庭動向調査」<http://www.ipss.go.jp/Japanese/Nsfj2/chapter73/html>

(2003.11.28. 受理)